

2021年7月30日  
町田市未来づくり研究所  
東京都市大学総合研究所未来都市研究機構

## 「町田市未来都市研究 2050」

### 町田市未来シナリオ 2050 を基に、未来シナリオの対応策を考える 今年度第 1 回ワークショップを開催

町田市未来づくり研究所と東京都市大学総合研究所未来都市研究機構（以下、未来都市研究機構）は共同で、2050年の未来の町田市について、テクノロジーの進化による都市や市民への影響を踏まえ、シナリオプランニングという新たな手法を用いた共同研究「町田市未来都市研究 2050」に取り組んでいます。取り組みの進捗状況についてご報告します。前回の進捗（2020/9/26 公開、2021/3/9 公開）については下記 URL をご覧ください。

●2020年9月

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/miraidukurikenkyujo/2050kenkyu.files/20200925release.pdf>

●2021年3月

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/miraidukurikenkyujo/katudounaiyou/2050kyoudoukenkyu/2050kenkyu.files/202103release.pdf>

## 1. 町田市未来シナリオ 2050 の策定

### 1-1 前年度の研究概要

前年度の主な活動は、①既存データ分析、②郊外型都市における住民意識リサーチ、③町田市現地視察、そして未来シナリオを検討するための PEST 分析に基づく④専門家ヒアリング調査、未来シナリオ検討のための⑤ワークショップ(計 2 回)、⑥日本全体のマクロ・トレンドを検討し、⑦町田市ベースシナリオおよび⑧町田市未来シナリオ 2050 を策定しました。

未来シナリオは、不確実ではあるが仮に起きた場合、影響度の高いことを事前に考え、未来へ備えることを目的にしています。PEST 分析に基づく政治・法的要因(Political)、経済的要因(Economical)、社会・文化的要因 (Socio-cultural)、技術的要因 (Technological) の 4 つの領域の専門家ヒアリングと収集した各種情報から抽出したキーワードの中から KDF (Key Driving Force: 未来への分岐点) を抽出し、未来シナリオを検討しています。町田市において、今後どのような環境変化が起こる可能性が高いのか、またその分岐点となるものはどのようなことになるのかを考察しています。KDF を設定し、特に注視すべき事象（不確実性が高く、影響力の大きい）を中心に、具体的な未来シナリオを議論しています。ここでの議論が町田市未来シナリオ 2050 に反映されます。

## 1-2 町田市ベースシナリオ 6つの視点

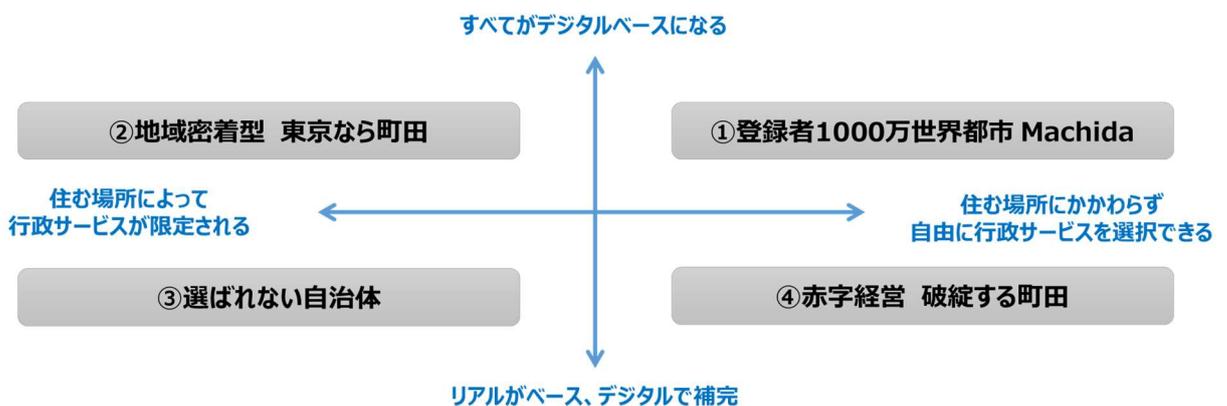
町田市ベースシナリオは影響度が大きく、不確実性が低い KDF を中心に検討を行っています。以下の6つに集約できます。2050年に確実に町田市に起こり得るベースシナリオを念頭においた政策を検討していく必要があります。

- ①人口減少・高齢社会における新たな社会像と公共の登場
- ②デジタルと空間・社会経済システムの一体化
- ③DXの浸透による個人重視型ライフスタイルの定着
- ④労働市場の二極化と社会分断の顕在化
- ⑤公共サービス（教育・医療・福祉）の激変、社会保障の負担増
- ⑥住宅・インフラの維持コスト増大と地域コミュニティの危機

## 1-3 影響が大きく不確実性は高い4つの町田市未来シナリオ 2050

前述の確実に起こり得る町田市ベースシナリオと並行して、影響度が大きく、不確実性が高い KDF をベースに議論を行い、4つの町田市未来シナリオ 2050 を策定しました。縦軸を「すべてがデジタルベースになる」と「リアルがベース、デジタルで補完」と設定し、横軸を「住む場所にかかわらず自由に行政サービスを選択できる」と「住む場所によって行政サービスが限定される」と設定しました。この縦軸および横軸を元に、4つの町田市未来シナリオが考えられます（図1参照）。

図1 4つの町田市未来シナリオ 2050



それぞれの象限におけるシナリオの世界観は、次の通りです。

### ①登録者 1000 万世界都市 Machida

「すべてがデジタルベースになる」×「住む場所にかかわらず自由に行政サービスを選択できる」

### ②地域密着型 東京なら町田

「すべてがデジタルベースになる」×「住む場所によって行政サービスが限定される」

### ③選ばれない自治体

「リアルがベース、デジタルで補完」×「住む場所によって行政サービスが限定される」

### ④赤字経営 破綻する町田

「リアルがベース、デジタルで補完」×「住む場所にかかわらず自由に行政サービスを選択できる」

これら4つの町田市未来シナリオ2050ごと、具体的詳細なシナリオが作成されています。この町田市未来シナリオ2050は不確実性が高いため、確実に起こり得る未来とは言い切れませんが、影響力が高いため、2050年に向けて準備をしておく必要があります。

## 2. 町田市未来シナリオ2050への対応策を考える

### 2-1 今年度の研究概要

今年度は、4つの町田市未来シナリオ2050への対応策について検討を行います。具体的には企業・大学における技術的なシーズに関する動向分析、未来シナリオ対応策を考えるワークショップの計画と実施、そして、未来シナリオへの対応策に対して専門家による評価レビューを行いながら、町田市未来シナリオ2050への対応策を策定していく予定です。

### 2-2 企業・大学における技術シーズ

町田市および周辺の事業者と、東京都市大学未来都市研究機構研究者に対して技術シーズ動向についてヒアリングを実施しました。未来につながるテクノロジーの動向を踏まえて、町田市未来シナリオ2050への対応策の検討に活かしていきます。

「仮想テレポーテーション」「デジタルとリアルの連動」「BIMの進展」「データ駆動型社会」「未来都市生活でのワーク環境」「グリーンインフラと情報技術」に関連する技術シーズに関して情報収集・意見交換を行いました。いずれも町田市未来シナリオ2050でKDFとなっているデジタル情報技術に関するものが中心となっています。

### 2-3 ワークショップ

今年度第1回目のワークショップを2021年7月19日に実施しました。未来シナリオは、不確実ではあるが仮に起きた場合、影響度の高いことを事前に考え、未来へ備えることを目的にしています。今回も関連する担当部局に在籍する町田市の職員に参加してもらいました。各分野の施策検討や事業計画の立案に、町田市未来シナリオ2050を活用してもらうことを期待しています。ワークショップでは、町田市が、より「好ましい未来」に近づき、「好ましくない未来」を回避するために、行政組織として何をすべきで、何をしてはいけないかを検討しました。

今後、ワークショップで出てきた様々な対応策を取りまとめて、より実効性の高い対応策にブラッシュアップしていきます。

### ◆「町田市未来都市研究 2050」の全体概要◆

人口減少、人口構造の変化に伴い、生活関連サービス（小売・飲食・娯楽・医療機関等）の縮小、税収減による行政サービスの水準低下、地域コミュニティの機能低下等、様々な問題が懸念されています。

一方で、平成に入りテクノロジーの変化が加速し、この10年程度の間、スマートフォンが特に普及し、SNSを通じて世界中の様々な行動や価値観が可視化され、生活者の意識、行動に影響を与えています。今後より一層、テクノロジーの進化が、社会、生活者に影響を与えると考えられることから、今後起こりうる様々な問題の解決の糸口となるよう、テクノロジーを中心とした長期的な将来都市像の姿を描き、必要と考えられる都市戦略を検討することを目的としています。

従来、自治体ではフォアキャスト的的手法（過去のデータや実績から導かれるトレンドに基づいて将来を予測し、必要な対応策を考える方法）により、将来を予測し対応してきましたが、現在のような不確実な社会・経済情勢においては、将来を確実に予測することは難しくなっています。

そこで、町田市未来づくり研究所と未来都市研究機構では新たな手法として、不確実性を前提とし、複数の未来を想定したシナリオを作成し、シナリオに応じた都市戦略を描き出すシナリオプランニングの手法により、テクノロジーの進化を見据えた、2050年の町田市の都市像に関する研究を行っています。

### ◆町田市全般に関する問い合わせ先：

町田市未来づくり研究所（政策経営部企画政策課内）

担当：本吉仁志、野田健太郎

e-mail:m2ri@[ ]city.machida.tokyo.jp \* [ ]を@に変換ください。

### ◆研究内容に関する問い合わせ先：

東京都市大学 総合研究所 未来都市研究機構

担当：葉村真樹（機構長・総合研究所教授）、北見幸一（都市生活学部准教授）

e-mail: miraitoshi@[ ]tcu.ac.jp \* [ ]を@に変換ください。